



なかむら けんいち
中村 憲一 議員
(令和)

コロナ禍で影響を受けている外食産業の実態とサクヤ長屋門ダイニングの今後について

問 外食産業に対して、テイクアウト、デリバリーを含めた新たな支援策を検討しているか。

部長 飲食等事業者事業継続応援給付金の交付、地域経済喚起のためのプレミアム付き商品券事業等を実施。外食産業がテイクアウトやデリバリー等新たな業態を取り入れ事業継続することに対する支援の必要性については、今後国の補助制度も注視していきたいと考えている。

問 サクヤ長屋門ダイニングの3か月間の協議休業に対して賃料が発生しない法的根拠は。

部長 賃貸借とは目的物を有償で使用収益させることであり、賃料は目的物の使用収益に対する対価として支払われるものである。よって、同店舗が自身の責めに帰さない理由により、一時的に使用収益しない期間に対し、市が賃料を請求しないことは法的に何ら問題ない。

時的に使用収益しない期間に対し、市が賃料を請求しないことは法的に何ら問題ない。

問 3か月の賃料の免除とは、実質的に69万円の経済的支援である。公平性の観点から他の外食産業にも同等の支援策は検討できないか。

部長 サクヤ長屋門ダイニングと市の1対1の契約であり、色々な事情、過去の経緯、お互いの人間性、関係性の中で色々な状況がある。契約自由の原則、民法の原則に基づいて、契約によってこれは免除ではなく、両者協議の上での判断である。他の事業者との公平、公正ということではなく、個々の契約に基づくものである。

問 使用収益が発生しないので、69万円の賃料を徴収しないという理屈は詭弁だと考える。他の外食産業から見れば、公平性を欠いていると言われても仕方ない事案である。何が行政をしてそこまでこの業者を優遇せしめるのか。

部長 食のまちづくりに取り組む事業者に対するエールを送る意味での契約の判断であり、特定の事業者をひいきするようなものではない。



こんどう ちづる
近藤 千鶴 議員
(令和)

高校生議会での「LGBTQIAと制服の自由」の提言について

問 機能性、国際性、多様性の視点でスラックスの選択制や制服自由化を求めるがいかがか。

教育長 スラックスについては、多様性を踏まえ新制服としての追加は教育的意義を踏まえ価値がある。制服自由化は、いじめ防止の観点から制服のほうが有効で中学生には制服が必要。

問 高校生議会で新しい制服について「前向きに検討する」と答弁しているが、今後の予定は。

教育長 すでに検討している学校もある。教師主導でなく生徒の必要感や自主性を大事にする。

問 LGBTQIAの友人がいて、身近に感じているという高校生議員の発言についてどう思われるか。

教育長 高校生が問題意識をもって発言したことを大変うれしく思う。

意見 制服の問題は人権の問題。LGBTQIAの方だけの問題でなく、機能的なユニバーサルの視点で考えてほしい。選択制について教育委員会として大きな姿勢を示していただきたい。

新稲子川温泉ユー・トリオと内房地区の活用について

問 再開に向けてユー・トリオの進捗状況は。

部長 6月の再開を目標に進めている。

問 温泉つきキャンプ場を提案するが。

部長 土砂災害警戒地域や騒音のため難しい。

問 境川・稲瀬川・富士川の合流地点の散策道を中心とした土地利用はできないか。

部長 建築物を伴わない土地利用が可能だが、洪水時浸水想定区域なので安全面で検討が必要。

市長 一番危険なところなので安心安全を考え、市で何かしようとは考えていない。

意見 台風等の災害用に作られているグラウンドや河川敷もある。できないよりも、どうしたらできるかという視点で考えてほしい。内房は富士宮の西の玄関として変わっていく地域。